

ら、押す方法が多く、その差は1%以下の危険率で有意になった。

更に畳上の吸込口の往復運動において、その速度の二水準と、掃除を1回及び2回繰返す二水準とを組合せ、**Split-plot design** で実験を行った。その結果速度については前の場合同様有意差は認められず、掃除方法については全体として1%以下の危険率で有意となった。1回の場合と2回繰返しの場合では2回の方が吸塵量は多いけれど、速度の大なる場合のみその1%間に以下の危険率で有意が認められた。

5 電気掃除機に関する研究（第1報）

—畳の掃除方法—

高知県立高知女子大 市川 一夫
深瀬 亀美
渋谷 孝子

近年電気掃除機の使用が多くなったが、その掃除方法は如何なる方法が、果して掃除機の機能能率を高めるかを知るため本研究に着手した。この実験は三菱電機株式会社製品タンク式 270 Watts を用いた。

先ず吸込口の動く速度を四段階として吸塵量を比較した。その結果は時間をかけたもの程吸塵量は多い傾向を示したが、しかし全体として有意差は得られなかった。

次に吸込口の動く速度を一定して、その動かし方を引く方法と、押す方法に区別して吸塵量を比較してみた